

＜今日の説教のポイント 創世記34章1～31節＞

恥辱に対して残酷な報復でもって返した話。ここから聞き取るべきは？

①書き手の立場は？ 異教徒に同情的。 創世記49章5～7節に注目！

聖書は神の民イスラエルに好意的に書かれていると思いがちです。しかしこの章は違います。明らかに、異教徒ヒビ人に同情的です。犯した罪は重い。しかし、その後の話の展開においては、すべて彼らに同情的な描写です。何よりも創世記49章にこう記されています。「シメオンとレビは似た兄弟。彼らの剣は暴力の道具。私の魂よ、彼らの謀議に加わるな。～ 彼らは怒りのままに人を殺し、思うがままに雄牛の足の筋を切った」(49:5-6)。信仰者である無しにかかわらず、衝動に駆られて怒りを爆発させてしまった時の人間の残酷性が問題なのです。

②だまして生きてきたヤコブが、息子たちのだましに苦しめられた！

ではヤコブはどうでしょうか？ 息子たちの仕業を見て最後に、「困ったことをしてくれたものだ」(30)と嘆いています。しかし、ヤコブは平和的な解決のために率先して動かなかったですし(5)、色んな人生の経験を重ねて来た年長者として良き範を示さなかった責任は重いと思います。息子たちが取った手段は「だます」(13)ことでしたが、それはかつてのヤコブ自身の姿でもありました。神様は色んな仕方を用いて、私たちに自分の罪を気づかせられるお方なのだと思います。

③この人間が救われる道はあるのか？ ある。聖書の神様に！

シメオンとレビがヤコブに、「私たちの妹が娼婦のように扱われてもいいのでしょうか」(31)と言い返したところで話は終わります。犯した罪を放っておいていいわけではないが、怒りにまかせて報復していいわけでもない、そのことを考えよ、と言われてるように思えます。私たちと同じ哺乳類の猿やイルカも意味無く同類を殺すそうです。人間が猿より賢いとしたらどういう点なのでしょう？ 理性を持つ点？ しかし理性を巡らして殺戮をなすのもまた人間です。こんな人間を見つめてばかりいても救いはありません。しかし、この罪深い人間をなお見捨てず、むしろ救うために御子イエス・キリストをお与え下さった神様に目を注ぐときに、この神様から来る新しい希望が見えて来るのです！